

身元と目的
復活の人々たち #2
スティーヴ・ミッチェル
2024年・5月・26日

始まり: 身元 + 目的

話しイラスト: 最近のマウイ旅行中に遊んだり話したりしているフィア
「プリンセス・ロレーナ・カレッジ・フィアが戦士の喜びの叫びをあげる」



そのようなアイデンティティ感覚はどこから来るのでしょうか？
フィアの場合、それは家族、想像力、...

僕たちにとっては、もっと複雑になることがあります。
アイデンティティは今日大きな問題です。
アイデンティティ政治があります...
...異なるアイデンティティを支持するグループがあります...
...そして「主義」によって動かされる市民社会の分裂があります

あらゆるところから一度にたくさんの影響が私たちに降りかかってきます。

彼らは、次のような質問に対する僕たちの反応を形作りたいのです。

「私は誰なのか？」
「自分自身をどう理解するのか？」
「僕はなぜここにいるのか？」
「僕は評価されているのか？」
「僕はここに属しているのか？」
「僕は人生で何をすべきなのか？」

話しイラスト: 数年前、私たちの Foursquare のリーダーの 1 人が博士号を取得していました。

彼は大規模教会の主任牧師たちのリーダーシップを研究していました。

彼の研究の一環として、全国の牧師たちに自分自身を一言で表現するよう依頼しました。彼は次のような大量の回答を得ました...

リーダー
最高経営責任者
先見の明のある人
未来学者
変革の推進者

しかし、このように答えたのはたった一人の牧師だけでした。「羊飼い」。
この牧師は自分のアイデンティティと目的について発言しました。
そして彼にとって、それらは一つの言葉に集約されました。「羊飼い」です。

それは僕たちのほとんどに当てはまりますね。
アイデンティティと目的は互いに強化し合います。

僕は牧師です
あなたは先生かもしれません
あるいは学生かもしれません
アスリートかもしれません
アーティストかもしれません
医者かもしれません

お母さん、お父さん、祖父母
息子または娘
シングルペアレント

生存者
犯罪者
中毒者

これらのラベルは強力なアイデンティティ形成要因となり得ます。

そして、多くの場合、私たちはそれを他人から受け取ります。

「君は頭がいいよ。」
「君は格好いいよ。」
「君には才能があるよ。」
「君にはこの仕事は向いていない。」
「どうして兄や姉や誰かのように成れないの？」

僕たちは「鏡」に囲まれています。
その鏡は、僕たちが誰であるかを映し出す他の人々です。
そして、私たちがここにいる理由も。

身元と目的。

しかし、こうした考察は、僕たちのほとんどにとって、単純化しすぎているように感じられるかもしれません。
複雑で美しい人間を、一言、あるいは一言にまとめてしまうのです。

幸いなことに、神は私たちをそのようには見ていません。
そして、エペソ人への手紙は僕たちに反対の提案をしています。

動き 1: 神は忙しい

聖書箇所を見てみましょう: エペソ1:3-14

これを読んでいくと、ピリオド、カンマ、段落区切りなどが目に入ります。

しかし、本来は一つの長い文なのです。

この一節は、崖から流れ落ちる滝のようにポールから流れ出て、平凡な日常の世界をきらびやかなハイライトで満たします。

彼はこの賛美を人生の平凡さ、さらには獄中での人生にまで注ぎ、その過程でそれを神の栄光を賛美する人生へと変えていったのです。

この一節は、新約聖書のハッブル望遠鏡であると同時に、心の顕微鏡でもあります。
神の宇宙計画の壮大なパノラマを私たちに見せてくれます。
そして、僕たちの魂の最も小さな痛む亀裂にまで入り込んできます。
過去の痛みによって刻まれた縫い目です。
このユニークな一節を読んでいる間、その言葉があなたの中に流れ込み、染み込んでいくのを感じてください。
聖霊が僕たちに神の言葉を授けてくださるこの機会を逃さないようにしましょう。

“ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し、みまえにきよく傷のない者となるようにと、天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと、御旨のよしとするところに従い、愛のうちにあらかじめ決めて下さったのである。これは、その愛する御子によって賜った栄光ある恵みを、わたしたちがほめたたえるためである。わたしたちは、御子にあって、神の豊かな恵みのゆえに、その血によるあがない、すなわち、罪過のゆるしを受けたのである。神はその恵みをさらに増し加えて、あらゆる知恵と悟りとをわたしたちに賜わり、御旨の奥義を、自らあらかじめ定められた計画に従って、わたしたちに示して下さいましたので

ある。それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。わたしたちは、御旨の欲するままにすべての事をなさるかたの目的の下に、キリストにあってあらかじめ定められ、神の民として選ばれたのである。それは、早くからキリストに望みをおいているわたしたちが、神の栄光をほめたたえる者となるためである。あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。”

エペソ人への手紙 1:3-14 口語訳

パウロはこれを「賛美」で始め、「賛美」で終わらせています。

「賞賛」という言葉は、しばしば「祝福」や「祝福された」と翻訳され、特に弔辞のような公式な方法で褒めることを意味します。この言葉は文字通り「賛辞」を意味します。

したがって、冒頭部分は次のように読むことができます…

「私たちの主イエス・キリストの神であり父である方をほめなさい。神は、メシアにおいて、あらゆる好意と善意の言葉をもって、天の領域で僕たちのことをほめてくださいました。」

神があなたについて良いことを言っておられる、あなたの名前が神の口の中で安全に守られている、ということをお考えたことがありますか。

あなたがイエスに属しているなら、イエスがあなたについて何と言うか聞いてください。

これはアイデンティティの深い源泉である:

- あなたは選ばれています。あなた方のうち、取り残されていると感じる人はどれくらいいますか？
- あなたは聖なる存在であり、現在と未来のすべての善いものの中に含まれます
- 僕たちは贖われ、赦され、罪のない者です。贖いの言葉は質屋の言葉です。神はあなたについて良いことを言うために、高価な代償を払いました。
- あなたは愛されています - 深く、情熱的に、そしてすべての「運命」よりも先に
- あなたは神に喜ばれています
- 僕たちは神の王国で神の家族として団結しています。あなたもそこに属しています！
- あなたは、あなたに「惜しみなく与えられた」神の恵みに富んでいます。
- あなたは保証された相続財産を持っています。そしてその保証とは神自身の霊です
- あなたは、神の栄光の賛美です

これは活動的です。これは生きています。

これは神が僕たちのためになされたことであり、今もなされていることです。

それは僕たちの人生のすべてを作り変えます！

あなたは自分自身をこのように考えていますか？

この「鏡」、このテキストの中に、自分のアイデンティティと目的を見えていますか？

神があなたが生きるために創造した、広大で美しい空間を見えていますか？

あなたが希望を見つけ、癒され、自由に繁栄できるようにされた園を見えていますか？

神は見えています。神はあなたのためにそのすべてを見えています。そしてそれは現実です。神があなたに対して語ったことはお世辞ではありません。それは真実です。

問題は、「神はこのように感じているか？」ではありません。神は不可能を可能にしたのか？

問題は、「あなたはそれを信じるだろうか？」です。

あなたはそれを受け入れるだろうか？
抽象的にではなく、個人的に、情熱的に。

動き 2: 鏡 + 船舶

“それは、早くからキリストに望みをおいているわたしたちが、神の栄光をほめたたえる者となるためである。”

エペソ人への手紙 1:12 口語訳

これが、これまで話してきたことの核心です。
最初の11節のすべては、「僕たちが...神の栄光をほめたたえるため」に繋がります。
僕たちが「...神の栄光をほめたたえるため」に。
それが、神がなさったことすべてに対する私たちの応答です。
それが、イエスを通して神が私たちを招いておられることです。

パウロはローマ書でこう述べています：

“兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。”

ローマ人への手紙 12:1 口語訳

イエスは僕たちにこう言っています。「僕たちが...神の栄光をたたえるために」僕たちは礼拝の生きた表現者になるべきだ。

パウロの考えでは、それが犠牲でした。それは礼拝でした。

しかし、立ち止まって考えてみてください。

パウロは善良なユダヤ人です。

祭りの期間中、神殿にいました。

彼は、犠牲は生き残らないことを知っています。彼らは生き続けません。彼らは死にます。

しかし、ローマ書では、パウロは、新しい礼拝の方法があると言っています。

あなたは生きた犠牲になることができます。あの動物たちがしたように、自分自身を完全に神に捧げるのです。

しかし、死で終わるのではなく、それは生命に満ちています！

あなたの人生は、継続的で活気に満ちた魅力的な礼拝の表現になることができます...
...神の栄光を物語る神への完全な献身です。

そして、それが神がキリストにおいて成し遂げたすべてのことを考えると、唯一の合理的な反応です。

ローマ書 12:1 の直前に何が書かれているか聞いてください。

“ああ深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい。「だれが、主の心を知っていたか。だれが、主の計画にあずかったか。また、だれが、まず主に与えて、その報いを受けるであろうか」。万物は、神からいで、神によって成り、神に帰するのである。栄光がとこしえに神にあるように、アメン。”

ローマ人への手紙 11:33-36 口語訳

ここに反響がありますか？ エペソ人への手紙、ヨブ記、詩篇、イザヤ書。

これはエペソ人への手紙 1 章と似ていない、美しい要約の祈りです。

パウロはぐるぐると回りながら書き、テーマを絶えず再訪し、拡張しています。

まるで駐車場の出口ランプを車で走り回っているようです。

同じことを別の視点から見続けるのです。

贖われた崇拝者として、生きた犠牲として生きることは、価値ある召命です。

あなた、僕たちはイエス・キリストのおかげで、そのような人生を受け入れるにふさわしいのです。

僕たちは崇拝に値するお方を崇拝するにふさわしいのです(アクシオス)。

課題:

Z 世代 (高校生が大好き、全員参加)

ミレニアル世代 (ストレス要因にもかかわらず教会に戻ってくる唯一の世代)

ベビーブーマー世代 (話しましょう...)

動き 3: それで、どうやってこれを実現するのでしょうか？

エペソ人への手紙の最初の14節では、イエスは15回も言及されています。

そのうち11回は「キリストにおいて」または「彼にあって」という表現です。

すべての祝福 — 私たちのアイデンティティと目的、神の王国で作り直されたすべてのものの統一、生きた礼拝の生活、聖霊による完全な相続の約束 — これらすべては、イエスにおいてのみ僕たちに与えられます。

では、「イエスにおいて」とはどういう意味でしょうか？

それは簡単です。

あなたはイエスにこう言います。「僕を救ってください。僕はあなたのものです。」

話しイラスト: マルティン・ルターとヨハン・フォン・シュタウピッツ(ドイツのアウグスティノ会修道士の牧師)

6時間の告解！

神抜きで自分自身に焦点を当てるだけでは、イエスとの希望に満ちた、癒しの、解放の、そして繁栄する関係を築くことはできません。僕たちはただ絶望、破滅、束縛から主に頼り、「僕を救ってください、僕はあなたのものです」と言うだけです。

和解の奉仕

聖餐

応答の歌

祝祷

神があなた方を褒めておられることを知る人々でありますように。神の子、救世主イエスへの信仰を通して、父なる神のすべての祝福を確保できますように。そして、あなた方がイエスの完全な姿を見る日まで、あなた方を神の愛の中にしっかりと留め、封印してくださる聖霊に満たされますように。
アーメン。

祈ってもらいながらここを去らないでください！